16 古文(1)

基本問題

1 次の古文と口語訳を読んで、あとの問いに答えなさい。

うつくしきもの　瓜にかきたるちごの顔。雀の子の、鼠鳴きするにを①どり来る。二つ三つばかりなるちごの、いそぎて㋐這ひ来る道に、②いと㋑ちひさき塵のありけるを、目ざとに見つけて、③いとをかしげなる指に㋒とらへて大人などに④見せたる、⑤いとうつくし。頭は尼剃ぎなるちごの、目に髪㋓のおほへるをかきはやらで、うちかたぶきて物など見たるも、うつくし。

〈清少納言「枕草子」より〉

口語訳　かわいらしいもの　瓜に描いた幼児の顔。スズメの子が、(人間が)ネズミの鳴き声のまねをすると、はねるようにして寄って来ること。二つか三つくらいの幼児が、急いではってやって来る途中で、とても小さなちりがあったのを目ざとく見つけて、たいそうかわいらしい指でつまんで、大人などに見せている様子は、とてもかわいらしい。髪をおかっぱ頭にしている幼児が、目に髪がかぶさっているのを、手で払いのけもしないで、少し首をかしげて何かを見ている様子も、かわいらしい。

歴史的仮名づかい

問1　〰線㋐「這ひ来る」、㋑「ちひさき」、㋒「とらへて」、㋓「おほへる」を、それぞれ現代仮名づかいに直して、すべて平仮名で書け。

㋐（　　）　㋑（　　）

㋒（　　）　㋓（　　）

◇歴史的仮名づかいの読み方

(1)	語の初め以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」→「わ・い・う・え・お」
例	あはれ→あわれ　使ひけり→使いけり　言ふ→言う
(2)	「ぢ・づ・ゐ・ゑ・を・くわ・ぐわ」→「じ・ず・い・え・お・か・が」
例	もみぢ→もみじ　みづ→みず　ゐる→いる　くわし→かし
(3)	au・iu・eu→ō・yū・yō
例	やうやう→ようよう　あやしう→あやしゅう
(4)	「〜む」→「〜ん」
例	飛ばむ→飛ばん　なむ言ひける→なん言いける

動作主

問2　――線①「をどり来る」、④「見せたる」の主語を、それぞれ古文中から抜き出して書け、ただし、①は三字、④は二字とする。

①（　　）　④（　　）

古語の意味

問3　――線②「いと」、③「をかしげなる」、⑤「うつくし」の意味をそれぞれ口語訳から抜き出して書け。

②（　　）　③（　　）

⑤（　　）

◇**重要古語――古今異義語――**

「いと」は古文の中でのみ用いられる語で、現代語にはないが、「うつくし」「をかし」は現代語でも用いられている。ところが現在私たちが使っている、「美しい」「おかしい」という意味とは異なる。このような、現代語とは意味の異なる語を、「古今異義語」という。

例

あはれなり＝しみじみとして趣が深い。	あやし＝いやしい・不思議だ。	
ありがたし＝めったにない・珍しい。	おどろく＝はっと目を覚ます。	
かなし＝いとしい・かわいい。	あさまし＝驚きあきれたことだ。	

内容理解

問4　この文章は、何について書かれているのか。その「何」にあたる部分を、古文中から七字で抜き出して書け。

［　　］について

2　次の古文と口語訳を読んで、あとの問いに答えなさい。

①つれづれなるままに、日暮らし、硯に向かひて、心にうつりゆくよしなしごとを、そこはかとなく書きつくれば、あやしうこそものぐるほし［　　］。

〈兼好法師「徒然草」より〉

口語訳　［　　］まま、一日中、すずりに向かって、心につぎつぎと浮かんでは消えてゆく［　　］を、ただ何となく書きとめていくと、（われながら）［　　］奇妙な気分になってくることであるよ。

歴史的仮名づかい

問1　〰〰線㋐「向かひて」を現代仮名づかいに直して、すべて平仮名で書け。

［　　］

古語の意味

問2　――線①「つれづれなる」、②「よしなしごと」、③「あやしう」の意味として最も適切と思われるものを、それぞれ次から選べ。

①
ア　何もすることがなくて、何となくもの悲しい
イ　何もすることがなくて、退屈な
ウ　何もすることがなくて、とても心配な
エ　多くの人々を引き連れて

②
ア　おもしろいこと　　イ　つまらないこと
ウ　もの悲しいこと　　エ　よくも悪くもないこと

③
ア　とりとめもなく　　イ　どうしようもなく
ウ　大変不審な様子で　　エ　不思議なほど

①［　　］　②［　　］　③［　　］

文語文法

問3　――線④「ものぐるほし［　　］」とあるが、［　　］に入るものとして適切なものを、次から一つ選べ。

ア　けり　　イ　ける　　ウ　けろ　　エ　けれ

［　　］

◇**係り結びの法則**

係り結びの法則は、まず次の二つのパターンを理解しよう。

(1)　……ぞ　なむ　～る。

(2)　……こそ　～れ。

例
男、あり。
男なむ、ある。
男こそ、あれ。

■「なむ」や「こそ」によって文末が変化する。

古文(1)の確認

●歴史的仮名づかいの読み方

歴史的仮名づかい	現代仮名づかい	例
語の初め以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」	「わ・い・う・え・お」	問ふ→問う　にほひ→におい
「ゐ」「ゑ」「を」	「い」「え」「お」	まゐる→まいる　をかし→おかし
「ぢ」「づ」	「じ」「ず」	ふぢ→ふじ(藤)　わづか→わずか
「くわ」「ぐわ」	「か」「が」	くわんねん→かんねん　ぐわん→がん(願)
ア段＋う(au)	オ段＋う(ō)	まうす→もうす
イ段＋う(iu)	イ段＋ゅ＋う(yū)	うれしう→うれしゅう
エ段＋う(eu)	イ段＋ょ＋う(yō)	てうし→ちょうし
「～む」	「～ん」	何事かありけむ→何事かありけん

1 次の各文の――線部を現代仮名づかいに直し、平仮名で書きなさい。

① 飛び急ぐさへあはれなり　（　　）

② おのづから人の上などうち言ひ、…　（　　）

③ 立ち返り恋しう思ひ出でらるる　（　　）

④ この獅子の立ちやう、いとめづらし　（　　）

●省略表現

古文では、主語や述語、助詞（は・が・を）などが省略されていることが多い。古文を正しく解釈するためには、これらの省略された言葉を補って読んでいくことが重要になる。

述語の省略	例 春はあけぼの（がすばらしい）。
助詞の省略	例 うつくしきこと（は）、限りなし。 例 髪（を）上げさせ、裳（を）着す。
名詞の省略	例 行く（人）もあり、来る（人）もあり。

2 次の各文の□に補うのに適切な一字を考えて書きなさい。

① 炭□もてわたるもいとつきづきし。

② これを見ると、盗人□去りにけり。

③ その竹の中に、もと□光る竹なむ一筋ありける。

④ ある人、弓□射ることを習ふに、もろ矢をたばさみて的に向かふ。

⑤ 花はさかりに、月はくまなき□をのみ見るものかは。

⑥ この児□、養ふほどに、すくすくと大きくなりまさぬ。

⑦ 十九日、日□あしければ、船□出ださず。

●重要古語

3 次の――線部は覚えておきたい重要古語である。それぞれの言葉の意味を［　］から選んで書き入れ、口語訳を完成させよ。

① うつくしきもの　瓜にかきたるちごの顔。

↓［　　］もの。瓜に描いてある小さな子どもの顔。

美しい　小さい　めずらしい　かわいらしい

② 冬はつとめて。

↓冬は［　　］がよい（趣がある）。

真昼　夕暮れ　早朝　夜明け

③ 夏はよる。月のころはさらなり、やみもなほ、ほたるの多く飛びちがひたる。

↓夏は夜がよい。月の眺めのよいころは［　　］、闇の夜でも［　　］、ほたるがたくさん飛び交っている（のは風情があってよい）。

さらにすばらしい　言うまでもない　まだ言うべきでない
いっそう　むしろ　やはり　なぜか

④ 雨など降るもをかし。

↓雨などが降るのも［　　］。

おかしい　見苦しい　趣がある　情けない

⑤ 日入りはてて、風の音、虫の音などいとあはれなり。

↓日がすっかり沈んでしまって、風の音や虫の音などが聞こえるのは［　　］［　　］。

いよいよ　無意味に　いつもの　とても
しみじみとして趣深い　かわいそうでたまらない
みすぼらしくてさみしい　うるさくさわがしい

⑥ ゆかしかりしかど、山までは見ざりき。

↓［　　］たが、山までは見なかった。

行ってしまっ　行かなかっ　行って見たかっ

⑦ 人あまた誘ひて……

↓人を［　　］誘って……

たくさん　少し　2、3人

⑧ 昔、いみじき盗人の大将軍ありけり。

↓昔、［　　］盗人の大親分がいた。

すばらしい　いじけた　貴い　恐ろしい